

なのはな通信

第6号 2001.7



編集・発行

勤医会東葛看護専門学校

〒270-0174 千葉県流山市下花輪409

TEL 0471-58-9955 FAX 0471-59-7055

発行責任者 小澤 清子



患者さんと共に学ぶ学習会
「塩分制限はなぜ必要か」を終えて・1科2年生

二十一世紀の一番星

校長 三上 満

二〇〇一年五月十一日。この日は、日本の医療史にとって歴史的な日となった。ハンセン病患者の方々の国家賠償を求める裁判で、隔離・差別・人権侵害について国の責任を認める判決が下されたのである。判決は、そうした政策をとり続けてきた行政の責任のみでなく、元患者の救済に必要な立法行為を怠った国会の責任も断罪した。

一時政府はこれを「三権分立を犯すもの」などとして控訴する姿勢を示したが、元患者の人たちの命がけの抗議と世論の前に控訴を断念した。憲法十三条には「生命・自由・幸福追求に堪ふる国民の権利については、立法その他国政の上で最大の尊重を必要とする。」として、立法の責任も明確にしている。その責任をおろそかにした国会の「不作為」を裁判で明確にしたのは当然のことである。「三権分立を犯す」などというのは見当違いもはなはだしい。

九〇年に及ぶ隔離と偏見、差別の歴史によりやく終止符がうたれた。ハンセン病患者に対する隔離が始まったのは明治以降であった。それは治療や予防のためではなく欧米の仲間入りをして、「二等国」を目ざす日本の体面のためだったという。肉親の死に立ち会うこともできず累が及ぶのをおそれて本名までも捨て、隔離の中で無念の死をとげた人たちが、少しでも人間らしい扱いを求めたために監獄のような「重監房」に入れられ、食事も満足に与えられず発狂し、亡くなっていった人たち。そのような歴史が、完治可能の病いとわかってからも続けられてきた責任はきわめて重い。

現代に生き、医療や看護にかかわるうとする私たちは、人間回復のためにたたかい続けた元患者の方々のヒューマニズムと勇氣に深く学ばなければならない。控訴断念をかちとって戻った原告団を熊本空港に迎えた歓迎の横断幕には、「あなた方は二十一世紀の一番星だ！」と書いてあった。続いて人権の勝利の二番星、三番星も輝き出す世紀にしなければならない。

2001年度教育活動

主な学校行事、教育活動は次の通りです。

2001年度教育活動（4月～7月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
4月	6日 始業 7日 第7回入学式 1科39名 2科41名 25日 防災訓練	20～21日 交流合宿	「生命活動」 の学び	6日 地域フィールド 発表	16～17日 交流合宿	23日 各論実習 開始
5月		15日～16日 病院探検	30～31日 生命活動発表	～/日 各論Ⅳ実習		
6月	1日 第7回体育祭 第1回運営委員会		6～22日 各論Ⅰ実習	～/日 各論Ⅴ実習	地域フィールド	各論ゼミナール 研修旅行事前 学習発表会①
7月	8日 千葉県下看護 学校体育大会 20～8/19日 夏期休暇	2日～4日 基礎Ⅰ実習 17日 基礎Ⅰ実習 発表	18日～19日 各論Ⅰ実習 ゼミナール	国試補講	地域フィールド 発表	国試補講

今後の予定（8月～3月）

	学校行事	1科1年	1科2年	1科3年	2科1年	2科2年
8月	20日 始業 25日 看護学校のときめき探検 31日 総合防災訓練		8/21～10/5日 各論Ⅱ実習		「生命活動」 の学び	各論 ゼミナール 27日 各論後期実習開始
9月	29日～30日 東葛祭 30日 同窓会総会			17～21日 研修旅行		
10月	秋の学生健診 第2回運営委員会	9～12日 基礎Ⅱ実習	18日 各論Ⅱ実習 ゼミナール 22～11/22日 各論Ⅲ実習	10日 研修旅行発表 15～11/9日 総合実習 国試オリエンテーション		各論内科発表会研修 旅行事前学習発表会② 9～12日 研修旅行 26日 研修旅行発表会 国試オリエンテーション
11月	17日 両科推薦入試 29日 県下看護学生 研究発表会	7～9日 基礎Ⅱ実習 発表		県下研究発表会	19～12/14日 基礎実習 「生命活動」発表	総合実習 県下研究発表会
12月	1日 第7回 キャビンゲルベニー 7日 国試願書提出 22～1/6日 冬期休暇		12～13日 各論Ⅱ実習 ゼミナール	18日～19日 総合実習 ゼミナール		20～21日 総合実習 ゼミナール
1月	7日 始業 18～19日 1科Ⅰ期 入学試験	21～2/8日 基礎Ⅲ実習			基礎実習 シンポジウム	
2月	1～2日 2科一般入学試験 24日 第91回 看護婦国家試験 第3回運営委員会		12～14日 地域フィールド	24日 看護婦国家 試験		24日 看護婦国家 試験
3月	1～2日 1科Ⅱ期入学試験 9日 第6回卒業式 16日～春期休暇 29日 国試合格発表	6～7日 基礎Ⅲ実習 発表				

自治会 だより

私たち学生自治会執行部では、これまで、お弁当販売についてやゴミ問題についての話し合い、教科書問題の勉強会などを行ってきました。

第2期学生自治会で、学生の要望であったお弁当販売を実現しましたが、お弁当を買う人が減少、一つも注文が無い日もありました。そこで私達は、お弁当に関するアンケートをみなさんにとった結果、その意見を基に弁当屋をいくつか検討しました。今月中に、まずは試食ということで、お弁当を販売しようと思っ
ています。

またゴミ問題と教科書問題についての反対署名に、とりくみました。執行部では、まず自分達がその署名について理解した上でみなさんに署名をお願いしています。ゴミ問題というのは、ゴミ焼却場の問題の

事です。執行部では、東葛看護学校の講堂で開かれた講演会に参加しました。病院の近くに焼却場を建設するという事がどういう事なのか。近くに暮らしている住民に及ぼす被害など、看護学生としての立場から考えさせられました。また、教科書問題については、三上校長先生に講師を依頼し、勉強会を行いました。

その他、学生の生の声を聞くために、もつと意見箱を活用してもらおうと、学校側と学生自治会との話し合いが開かれる週を意見箱週間とし、各クラスに呼びかけをしています。

現在は、九月に開かれる自治会総会に向けて話し合いを進めています。その内容は、規約や予算についての見直しなどで、それを基に第4期学生自治会に向けての方針案や予算案を考えています。

みなさんが、学生自治会をもっと身近に感じ、活用できるように自治会室を解放していきたいです。気軽に自治会役員に声をかけて下さい。

学生自治会会長 安藤 友美

第二期自治会役員

会長	安藤 友美 (1科2年)
副会長	刀禰 真弓 (1科2年)
書記	小柳 史江 (1科2年)
庶務	楠田 さやか (1科2年)
会計	立花 佳子 (2科2年)
	三枝 未幸 (1科2年)
	加邊 伸子 (1科3年)
	高橋 奈津子 (1科3年)
	渡邊 俊介 (1科2年)
	梅蔭 光 (1科2年)
	中村 ますみ (1科2年)
	加藤 学実 (1科3年)
会計監査	鄭 堅桓 (1科1年)
	市原 伸子 (1科1年)

第3期自治会役員



入学直後の 交流台宿

本校では、入学して間もない時期に集団づくりの第一歩として、交流合宿を取り組み今回で2回目になる。今年も「看護婦という同じ目標に向かい、競争ではなく皆と手をつなぎ共に目指す仲間を知る」という目的で、日常性から離れ、茨城県の自然環境豊かな施設で1泊2日の日程で行った。

一日目、昼食は、火おこしから自分達の力で行う野外炊飯を取り入れた。スポーツ交流や「看護職を目指す動機」をテーマにグループ討議をし、その後宿泊棟に入ってから、時間を忘れたかのように、あちらこちらでグループを超えて、ほとんどの学生が夜明けまで話しこんでいた。

合宿に参加した学生はほとんどが「三年間が楽しみだ。」「言い合えるクラスに出会ったのは初めてで真剣に話せるのはいい。」「支えながら一緒に成長していきたい。」「人のことを知り自分のことも知ってもらいたい。」など、合宿は楽しかったという生き生きとした感想を述べていた。しかし、中には「みんなすぐく大人で一步も二歩も差をつけられているのではないか。」「私は看護婦になろうとした動機がこんなでいいのだろうか、かえって不安になった」などの感想もあった。

二日目、グループ討議の報告を行い、その場では、高校までは友達にも話せなかつた兄弟への思い、いじめにあつてきたなどの経験談の話もでた。クラスの仲間の前で話すのは勇気がいることであるが、一人が話すことと話が出る



た。出会ってまもない仲間の事を、全て理解するのは困難だと思われるが、合宿の中の話し合いを通して、話してもよい仲間なのだという安心感を得、信頼できる集団基礎作りができた。

教員は、学生のレクレーション、バーベキュー、討論への参加状況から、楽しく、生き生きとした学生の表情、真剣に話し合う姿勢、得意な一面、消極的な面など学生一人一人を理解していく機会となった。そして人を見ると競争相手、自分と人とを比較してしまうという入学前の閉ざされた生活から解放されていく学生の姿を通して、本来の若者の姿を見ることができた。

本校では、本当に分かる学びをとおして、人間としての発達を応援するため、学生集団での学びを大事にしている。入学してくる学生は、育つて来た



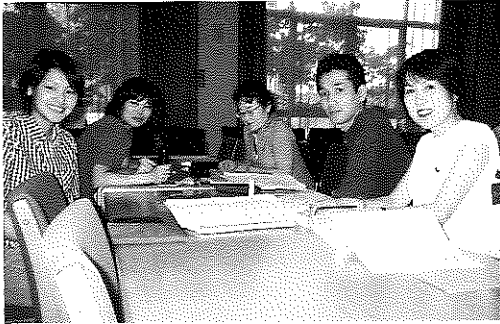
歴史、背景はそれぞれ異なっている。教員集団は、入学直後の交流合宿をとおして、出来るだけ早い時期に、学生一人一人を理解していきたいと思っている。そして少しでも壁を取り除き、本来学生が持っている個性を自由に発揮できるよう、今後とも交流合宿を企画し、応援していきたいと思う。

(1科1年担当 深谷 京子)

地域 フィールド の学び

高齢者の増加と介護力不足を理由に、介護問題が老後最大の不安要因といわれ、医療・看護が大きく変化しているなか、2科7期生の在宅看護論の授業が始まりました。

「地域フィールド」とは、『基本的人権の立場に立つ看護』をテーマに行う在宅看護論演習です。『住み慣れた地域で暮らし続けたい』患者の願いを一緒に考え、諸関連部門と力



を合せて実践し、行動する看護について考える』という目的で行います。往診・訪問看護・介護サービスを利用してある患者さんに依頼し、学生が交替で数名ずつ一ヶ月間、週一回の割合で計四回、自宅訪問し看護実践を行います。また同時進行で、老人保健施設や在宅介護支援センター等での実習を行い、通所リハビリや要介護認定訪問調査の実際も見学します。

地域フィールド以前の講義や事前学習で得た知識と技術を、訪問を通して実践し、自宅訪問した学生と、施設訪問をした学生がグループワークで互いの学びを共通のものにします。

現在レポート作成は進行途中ですが、訪問患者さんの一人である〇氏からの学びの一部を紹介します。

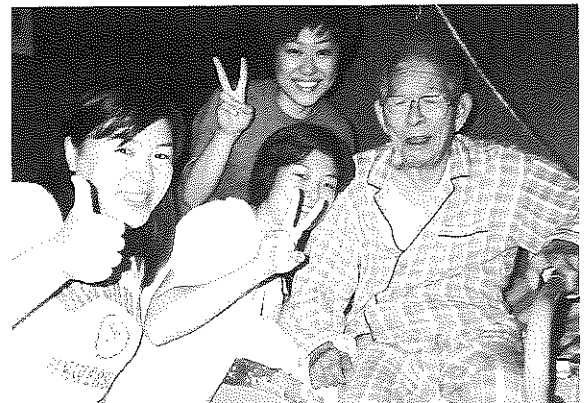
――訪問レポートより――
「私達が訪問させていたただいた間、〇氏は必ず、リハビリ↓車椅子乗車↓愛犬とふれ合うことを施行していた。この三項目は〇氏の心と体にとっても刺激を与える重要なことだと思ふ。しか

し、この援助は私達学生だからできたのではないかと思う。ヘルパーさん達は毎日訪問して下さっているが、その時間は家事全般、〇氏のケアで一杯で、とてもこの三項目まで手がまわるとは思えないし、申し送りノートにも書かれていなかった。毎週火曜日に理学療法士さんが来て下さるが本人は、辛いらハビリを自主的に行うぐらい意欲的なものだから、そういう時間が毎日数時間でもあればいいのにと感じた。愛犬とふれ合っているときの〇氏は、とてもよく笑っている。言葉が話せないというハンディを持ちながらも、アクリルボード、孫の手、ナースコール、伝心の心(ノート型パソコンの意思伝達装置)といった機械器具を使って周りの人達とのコミュニケーションをはかり、自分の気持ちと上手につきあっている〇氏は、ベッド上でも主婦としての役割をこなしていた。朝は息子達が学校へ遅刻しないようにナースコールで起こし、食事も献立を考えヘルパーさんに作ってもらおう。掃除も昨日はお風呂を洗ったから今日は玄関の整理というように、しっかり覚えていて指示をしている。身体が不自由になっちゃった場合、

ほとんどの方がそれらに影響され消極的になる傾向があるのだが、〇氏の場合は精神が身体の不自由さに打ち勝って、十分文化的な精神活動を維持しているのではないかと感じられた。」

学生たちは、自宅訪問や看護実践グループワークを通して、患者さんの願いを発見する力をもっています。教員は患者さんの願いを実現するために必要な、医療者としてのちからをつける学びの応援をしていきたいと思ふます。

(担当教員 生田 知歩)



入学にあたって

1科七期生

今日、この日を私はどんなに待ちこがれていたことでしょう。随分遠回りをしてきたけれども、こうして念願の看護学校に入学できたのも、たくさんの人に支えられてきたからだと思いません。

そして何よりも、妻と子の暖かい支えなしにはありえなかったことです。私は大学在学中に様々な人達との出会いに恵まれたことから、人間社会が健康で強い人達のみによって構成されているのではなく、病気や障害を持ちながら日々の生活を営む人々が、存在するという事に目を向けなければならぬと思うようになりました。そういう人達が陰に追

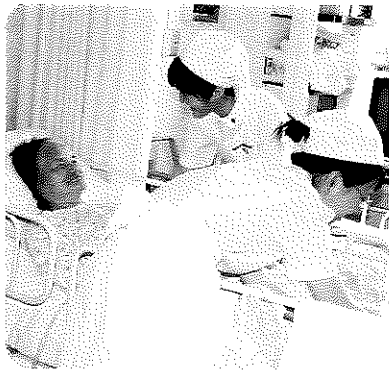
いやられることなく、一人一人が人生の主役として輝いて生きるために、私に何が出来るかを模索する中、看護の持つ幅広い可能性に出会いました。

看護は、病気や障害のみならず、人間そのものへの働きかけです。どんな人間も一人一人が人間らしく生きていけるよう、人間のやさしさと、生きる力強さを信じ働きかけていける看護士になりたいと思います。

そして私自身の持つ可能性に常に挑戦しつづけたと思います。

一緒に学ぶ学生のみならず、これからの道は決して平坦ではないかも知れませんが、その先にあるものに向かつて一緒に歩んでいきましょう。そして先生、諸先輩方、そんな私達に暖かいお力ぞえのほどよろしくお願いたします。

(1科七期生 鄭 堅桓)



2科七期生

私は、北海道釧路市から、やって参りました。釧路では、五月にならなければ桜を観る事ができませんが、ひと足早く、桜を観る事ができました。本日、これから始まる私のクラスは、四十一名で、最年少十八才の方が九名、お母さん学生の方や男性が二名という構成の中で、私が代表して挨拶させて頂きます。

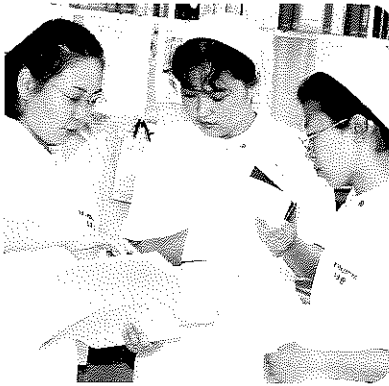
私は、今まで准看護婦として、臨床の場で働いてきました。今、多くの情報が行き交う中、患者さんの知識も高まっており、逆に患者さんに教わってしまう事がありました。そして何より恐れてしまうのは、いつでも加害者にも被害者にもなり得る事が考えられ、十分な知識を身につける事が、重要ではないかと感じま

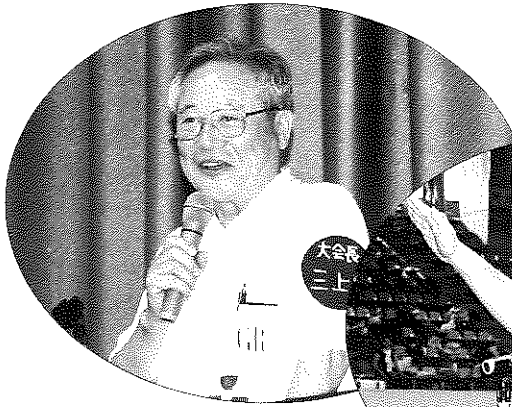
した。

現在、マスクミで大きく取り上げられている感染問題や医療事故がありますが、私の勤務していた病院でも、看護技術などの見直しがされました。対策委員が設置され、各部所での話し合いもされましたが、その様な場でも自分の知識のなさから発言する事もできず、不十分さを痛感し、実践を發展させる基礎知識を学習する事が課題と感じました。そして今、不況でデフレスパイラルの中、働き盛りの方が、失業や、会社側からの解雇におびやかされ精神面だけではなく、過労など自己の健康管理にも影響を、及ぼしていきます。さらに高齢化と反比例していくかの様な医療改悪で、気軽に病院にかかれぬ老人の方も増え、最悪な条件下で、生活している人もいると思えます。健康で文化的な生活は、どうやっていくのか、未来に不安を感じてしまっています。

私は、そういった社会問題も視野に入れ、患者さんの様々な生活背景を知り、看護を通して人間として成長していく事を、願います。そして、これらを担っていく為、安全で安心な世の中にしていける様、問題意識を持ち働きかけができる看護婦をめざし、四十一名の皆と共に、学習し努力していく事を、決意とします。

(2科七期生 小林 真奈実)





友情深めた 第42回県下体育大会

七月六日、千葉県総
合運動場にて、第
四十二回県下看護
学校親睦体育大
会が開催されま
した。昨年の四
十一回大会で幕
を閉じるはずだ
ったのですが、引
き続き行いたいとい
う学校が七校集まり、東
葛が当番校で準備を進めてき
ました。今大会は、競技を柱に親睦を深めようということ
で、総合優勝をやめ、だれもが楽しんで思い出に残る大会にしたい
と進めてきました。前日の準備日から、二十名の実行委員をは
じめ、全学生、教員で学校一丸となつて運営に当りました。大
会が成功に終つたのも、ひとり一人の力が合
わさつたからこそ成り得た結果だと思
います。実習などの両立で
大変だったかと思いますが、「全員で何かを行う」という
ことに意義があつた大会だ
と思います。また、バスケ
ットや綱引などは混成チー
ムで行い、他校との友情も
深めました。

(大会実行委員長

市川 喜章)



よろしく 新人職員紹介



みなさん、
こんにちは。

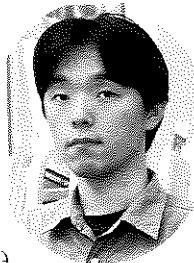
私は、実
質的には今
年の三月半
ばから図書室
で働いています。

私は、五年前まで大学
図書館で三十二年間勤務してきまし
た。国立大学に十一年間。私立大学
に二十一年間、働いたのですが、特
に後半の私立大学では、地域に開か
れた大学図書館を目指して、図書館
の市民開放や、子供たちのための文
庫を開設したり、大学図書館として
は、かなりユニークな活動を推進し
てきました。

また、一方では八〇年代から盛ん
になった図書館の機械化。それは、
現在の情報化社会といわれる現状の
基礎となるような図書館機能の大変

革時代でした。私の三〇年間は、凝
縮された図書館の変容を身を持って
体験してきたことでもありました。

そんな私が、ひよんなことから看
護学校の図書室のお手伝いをするこ
とになりました。大学図書館といっ
ても、看護学や医学部からは遠いと
ころにおりましたし、現状では原則
として週一日（火曜日）の勤務しか
出来ないこともあって大変迷ったの
ですが、私の経験がこれからの図書
室の充実に多少なりともお役に立て
ればと思ってお引き受けしました。人
間性豊かな看護婦を目指して日夜勉
学に励まれているみなさんに、役立
てられる図書室作りを志向していき
たいと思います。よろしくお願いま
す。



川上 蓉子

(図書司書 川上 蓉子)

はじめまし
て。今年の
四月から
非常勤職
員として、
図書室で働
いています。

私は今年大学を
卒業したばかりで図書館司書として
の経験もなく、まだまだ未熟な身で
すが、司書として長年経験を積んで
おられる川上さんの下で指導を受け
ながら、頑張っていこうと思ってい

ます。

学校内において図書室というのは、
無論の事勉強に使われる場ですが、
それ以外にも純粹に本に触れる楽し
みを探す場所だと思っています。気
軽にご利用してください。これから
よろしくお願ひします。

(図書司書 矢幅 真)

ー図書室からー

予定より、一ヶ月余り遅れてしま
いましたが、七月より図書室の業務
を基本的に機械化しました。本図書
室の図書システムは、「情報館」とい
います。

・入力された図書（ラベルとバー
コードが貼ってあります）は、
カウンターの利用者用端末で検
索できます。(著者名・書名)

*次の二点は、必ず守って！

・図書の貸出は、既に配布された
図書貸出証で行いますので、利
用者は必ず携帯して下さい。
・返却する本は、必ずカウンター
横の返却台（ブックトラック）
に置いてください。

・少し時間は、かかりますが、他
施設にある資料のコピー依頼も
出来ますので、ご遠慮なくご相談
ください。

編集後記

当校も開設七年目となり、看護
第二科は民医連では唯一とな
った。

長年の懸案であった図書司書
の方二名を迎え、図書の整備が
前進し、期待が広がっている。

今年、千葉県下看護学校親
睦体育大会の当番校にあたり、
企画・準備に追われた。学生た
ちは、授業や実習の合間をぬつ
て実行委員をはじめ全員が係を
担い頑張った。

初めての当番校ということも
あるが、県の助成金が四十三万
円から一〇万円に減額になった
ことで、打ち込みをしてからの
印刷入れや、審判依頼をしない
ことからくる労力は多大なもの
であった。勉学に支障がでるの
ではないかと心配もあったが、
大会は成功裏に終わりほっとし
ている。大会長・三上校長は閉
会式で「今大会は友情の勝利」
と結んだ。

この取り組みの中で学生たち
は、ひとまわり大きくなった。
学生のエネルギーに乾杯！

学校通信編集委員会

江島典子、机みどり、小澤清子